

する経緯には諸説があり、そのいくつかを紹介しよう。

「金魚ねぶた」が誕生する。藩主の寵愛していた魚が死んでしまい、藩主が塞ぎ込んでしまった。

金魚を弘前城下に移入して養殖と品種改良

する。藩主の寵愛していた魚が死んでしまい、藩主が塞ぎ込んでしまった。

元気を取り戻してほし

る。

柳井市社会教育指導員 松島幸夫

柳井金魚ちようちんの歴史

(2)

柳井市社会教育指導員

松島幸夫

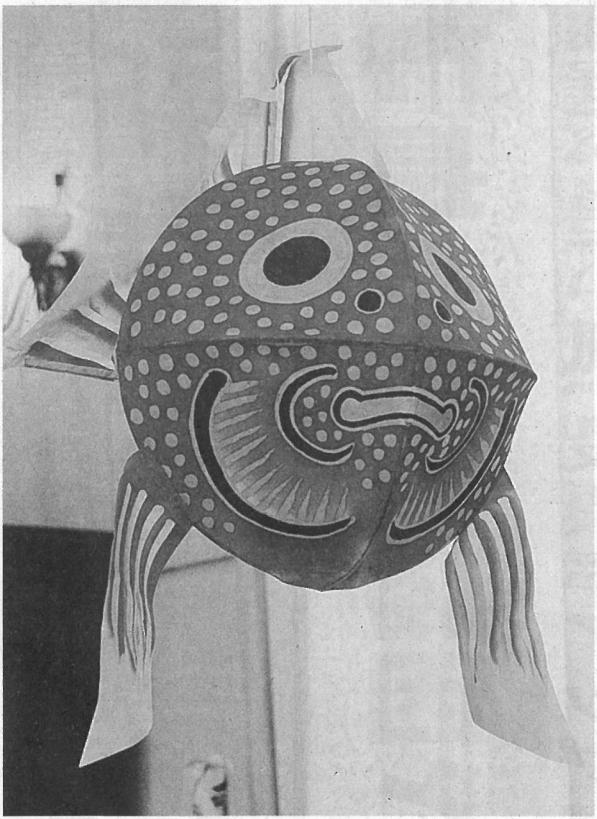
〔②金魚ねぶたの登場〕

江戸時代の後半期に、灯火玩具である「金魚ねぶた」が津軽藩で誕生した。「津軽錦」は、尾ひれが大きく、背びれがない。程よい丸みのある体形をしており、その特徴を灯火玩具の「金魚ねぶた」に移していいる。津軽で品種改良をした「津軽錦」への愛情が入り混じつておる。郷土の誇りが感じられる。

また別の説として、藩主の寵愛していた魚が死んでしまい、藩主が塞ぎ込んでしまった。

元気を取り戻してほし

る。



(写真は青森県弘前の「金魚ねぶた」)

江戸時代の後半期に、灯火玩具である「金魚ねぶた」が津軽藩で誕生した。「津軽錦」は、尾ひれが大きく、背びれがない。程よい丸みのある体形をしており、その特徴を灯火玩具の「金魚ねぶた」に移していいる。津軽で品種改良をした「津軽錦」への愛情が入り混じつておる。郷土の誇りが感じられる。

柳井市社会教育指導員 松島幸夫

に取り組んだ頃、金魚を初めて覗き見た弘前の庶民は気味悪がったといふ。尾ひれは大きくて裂けて、背びれがなく、毒々しい赤色をしている。

といふ。尾ひれは大きくて裂けて、背びれがなく、毒々しい赤色をしている。

といふ。尾ひれは大きくて裂けて、背びれがなく、毒々しい赤色をしている。

といふ。尾ひれは大きくて裂けて、背びれがなく、毒々しい赤色をしている。

といふ。尾ひれは大きくて裂けて、背びれがなく、毒々しい赤色をしている。

といふ。尾ひれは大きくて裂けて、背びれがなく、毒々しい赤色をしている。

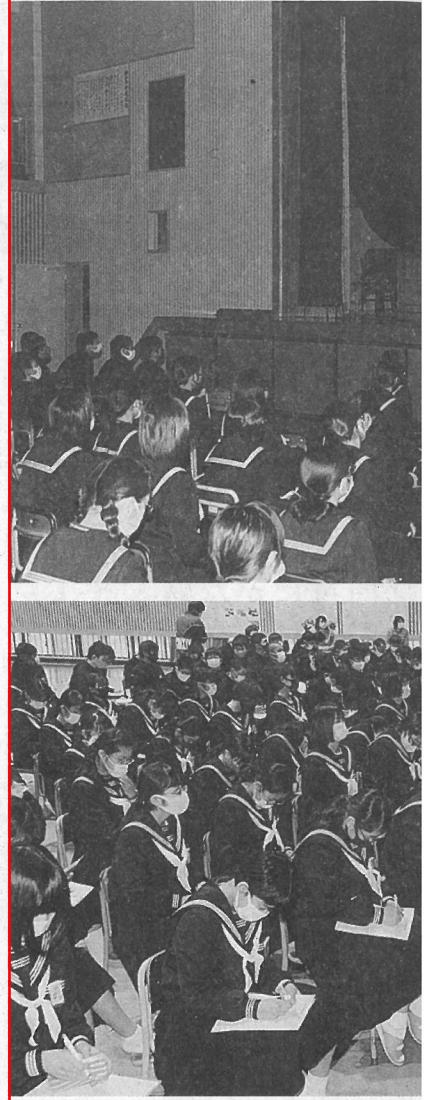
といふ。尾ひれは大きくて裂けて、背びれがなく、毒々しい赤色をしている。

は実際にやっかいな感染症であった。高熱を発し、身体は赤くむくみ、死に至ることもあつた。

は実際にやっかいな感染症であった。高熱を発し、身体は赤くむくみ、死に至ることもあつた。

は実際にやっかいな感染症であった。高熱を発し、身体は赤くむくみ、死に至ることもあつた。

は実際にやっかいな感染症であった。高熱を発し、身体は赤くむくみ、死に至ることもあつた。



【新しい特産品を製造】
若い人を対象とした新しい特産品「じねんじよタピオカ」を開発する企画。じねんじよと片栗粉を使つてのタピオカ作りに挑戦。感想として、「新しい特産

市外への進学後柳井に戻つてきたい人は4%。柳井で働きたい人を増やすための企画として、柳井で仕事をする人や就職する人に補助金(5万円程度)を給付する。柳井での就職に興味を持ち、労働人口が増加し、柳井の経済が

市外への進学後柳井に戻つてきたい人は4%。柳井で働きたい人を増やすための企画として、柳井で仕事をする人や就職する人に補助金(5万円程度)を給付する。柳井での就職に興味を持ち、労働人口が増加し、柳井の経済が

市外への進学後柳井に戻つてきたい人は4%。柳井で働きたい人を増やすための企画として、柳井で仕事をする人や就職する人に補助金(5万円程度)を給付する。柳井での就職に興味を持ち、労働人口が増加し、柳井の経済が